

# 白石警察署協議会開催結果の概要

令和7年3月26日

会 議	令和6年度 第3回 白石警察署協議会
開催日時	令和7年2月7日(金) 15:30~17:15
開催場所	白石警察署 訓授室
出席者	○協議会：友納由美会長 森重海副会長 久原美智子美委員 早田美幸委員 久原安英委員 (5人) ○警察署：武藤署長 副島警務課長 杠生活安全・刑事課長 伊藤地域課長 渡辺交通課長 西村警備課長 警務係長 (7人) 計 12人
議 事 概 要	
<p><b>1 開会</b></p> <p><b>2 会長挨拶</b></p> <p>本日、令和6年度第3回目の白石警察署協議会を開催するにあたり、白石警察署協議会の各委員様及び白石警察署の皆様方には、大変お忙しい中、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>また、白石警察署の皆様には、管内の安全、安心のため、日々ご尽力いただきありがとうございます。</p> <p>さて、1月30日に警察署協議会代表者連絡会議が開催され、出席してまいりました。他の警察署協議会でも、管内の情勢に応じた様々な協議が行われていることを知り、大変有意義なものとなりました。</p> <p>本日の協議会では、昨年11月に開催された第2回白石警察署協議会で諮問を受けた「鍵かけの向上方策方策」についての答申を行うこととなっています。</p> <p>加えて委員の皆様には、白石警察署の業務運営などに関し、活発な意見交換をしたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。</p> <p><b>3 署長挨拶</b></p> <p>本日は、警察署協議会の皆様には、大変お忙しい中、お越しいただきありがとうございます。また、平素から格別のご理解とご協力を賜っておりますことに対し、厚く御礼申し上げます。</p> <p>さて、令和6年中における白石警察署の犯罪情勢及び交通情勢についてですが、一昨年と比べ、刑法犯認知件数と人身交通事故件数は、ともにわずかに増加いたしました。</p> <p>一方、交通事故で亡くなられた方は、佐賀県全体で増加しましたが、当署管内においては、地域の皆様と連携した交通安全対策を推進し、死亡事故は発生しませんでした。</p> <p>また、刑法犯認知件数では、特に、窃盗犯が増加し「鍵かけの向上方策」について委員の皆様への答申を踏まえて取り組んでいきたいと考える次第です。本日も、是非、様々なご意見を賜りますようお願い申し上げます。</p>	

#### 4 白石警察署業務概況報告

##### (1) 業務概況報告

- ア 警務課長 ～ 相談業務受理状況、新任警察官紹介、広報活動状況  
男性職員の育児休業取得状況、術科訓練状況等
- イ 生活安全・刑事課長 ～ 刑法犯・窃盗犯認知状況、犯罪検挙状況、  
犯罪抑止活動状況、男女間トラブルの認知  
状況等
- ウ 地域課長 ～ 地域警察官の活動状況、110番受理状況等
- エ 交通課長 ～ 交通事故発生状況と特徴、交通事故抑止対策等
- オ 警備係長 ～ 警衛警備活動状況、災害警備対策、来日外国人対策等

##### (2) 業務概況報告に関する質疑

委員： 検挙と逮捕はどう違うのか。

警察： 検挙は逮捕や任意送致事件を含むもので、逮捕は犯人を逮捕した事案のことである。

委員： 最近新聞で逮捕された人を不起訴にしたというのを見るが、不起訴理由が載っていないのはなぜか。

警察： 起訴、不起訴については、検察官が判断しており、警察官が判断するものではない。

委員： 交通事故多発路線における取締り強化の説明があったが、防犯カメラを使った取締りはされているか。

警察： 事故が発生した場合に防犯カメラを確認して事故の状況を確認することはあるが、防犯カメラを使った取締りはしていない。

委員： テレビを見ていると、防犯カメラで犯人が見つかっているが、未だに田舎では携帯電話を使用したり、一時停止をしない車があるため、防犯カメラを使って取締りをすれば言い訳できないと思う。

警察： 防犯カメラ自体の設置目的に関わってくるが、取締りのために使用するの難しいところがある。犯罪が発生している等の蓋然性があればいいが、交通違反に対して使うのは難しい。オービスでの速度取締りは、悪質な一定速度以上の違反に限って使用できるものであり、可搬式オービスは通学路などの危険箇所で使用している。

防犯カメラには犯罪の抑止効果があるため、今後「交通監視カメラ設置中」等の看板で防犯カメラが設置されていることを広く知らせることは、交通事故や違反の抑止として有効な手段になると思う。

交通ルールは守るべきものであり、警察官が見ていなくても、看板等が無くても、交通ルールを守るという意識を向上させることが重要だと思う。

#### 5 答申

第2回協議会において諮問を受けた「鍵かけの向上方策」について、会長が、これまで取り組まれていた

- 登校中の学生に対する自転車施錠の呼びかけ
- 駅、商業施設における広報とワイヤー錠、補助鍵の配布

- 学校、公民館における防犯講話やラジオを活用した防犯広報などの活動に加え、施錠意識の向上に向け、
- チラシ配布や情報発信を繰り返す
- 行政機関と連携し、防災無線等により、住民の耳に直接訴える
- 若者でも使用するオシャレな施錠呼びかけステッカーを配布するなどの改善を図れば、より一層の効果が期待できると思う。

また、情報発信や防犯講話の際に視覚に訴えるため、プライバシーの保護に留意しつつ、防犯広報資料内に

- 実際の犯罪現場の写真を使う
- 被害に遭われた方の感想を紹介する
- 文言にはインパクトがある方言を交える

ことなどを盛り込めば、より現実味を帯び、住民の心に響くのではないかと思う。

さらに、警察が情報発信をするためには、地区の不審者情報などをタイムリーに把握する必要があり、これまで以上に住民と警察との距離感が重要と思われることから、

- 住民に気軽に声かけを行うなど、相談しやすい環境をつくる
- 住民一人一人の自覚を促す広報活動やパトロールを強化する

ことなどに取り組めば、鍵かけの向上方策に一層の効果が期待できると思う。

旨の答申を行った。

## 6 意見交換・質疑等

委員： 先月、警察署協議会代表者連絡会議に参加した際、約6署からニセ電話詐欺に関する諮問、答申がされたとの報告があった。とにかく佐賀県ではニセ電話詐欺の被害が多く、佐賀県警をあげて様々な対策をされているという話のなかで「SHB詐欺被害防止24動画コンテンツ」の紹介があった。実際動画を見てみると、若い世代を対象とした30秒の動画で、短い中にもインパクトがあった。例えば、一般の方が作られた動画で、女子高校生2人が校庭に座ってスマホを見ながら、「ロマンス詐欺で彼氏が出来た」「それは違うんじゃない」という動画で、私にも同世代の子供がいるため身近に感じる事ができた。警察の方が作られている動画よりもインパクトがあり、すーっと入ってきた感じがした。

また、白石警察署では小中学校の生徒に対する交通標語募集、江北町では交通事故防止に関して町をあげて取り組んでいるようですが、ニセ電話詐欺の標語を作るのはあまり聞いたことがなかったので、ぜひ江北町に働きかけてニセ電話詐欺対策を一緒にしていきたいと思う。

もうひとつ、小城警察署では災害資機材やパトカーに積載されている資機材の視察研修をされたという話を聞き、そういえばパトカーにはどのような資機材が載せられているのだろうと思い、今後そのような視察研修もしてみたいと思った。本日、警備課長から紹介のあった、警護に使用する資機材も興味深かった。

警察： 次回にでもパトカー等の視察を行いたいと思う。

委員： NHKで東京サラダボールというドラマをやっており、外国人就労者に警察と通訳が協力しているという興味深いストーリーだった。

白石町にも多くの外国人が就労に来ているが、住民とのコミュニケーションはなく、どんな人が住んでいるのか分からないため、事件等があれば外国人に対する悪い噂が立ちやすくなっている。

昔であれば近所に引越し挨拶をしていたので、例えば、雇用される企業の方から近所の人に、どこの国の人が何人住む等の挨拶があればいいと思う。警察にも知らせてもらい、住民の不安を取ってもらえれば、有効な関係性が築けると思う。

北方町の企業では、外国人就労者を雇った際、就労者と一緒に近所に挨拶をしていると聞き、とても良いことだと思った。外国人就労者の安全安心を守るのも必要なことだと思う。

警察： 可能であれば、企業の方に御協力いただき、近所の方に挨拶等ができればと思う。個人情報の問題もあるため、住民同士で自らコミュニケーションを取ってもらえると、周りの住民も安心できるのではないかと思う。

委員： 今のところトラブルはないが、文化の違い等で排水溝に油を流す人がいて大家さんが困るということもある。交通事故があれば言葉が通じないことから、私はやっていないと言う人がいてトラブルになったという話を聞いたことがある。大きなトラブルが起こる前に対処していかなければいけないと思う。

警察： やはりコミュニケーションが重要だと思う。警察官は、翻訳機能がついた携帯型の無線機を持っているため、そのような機器を活用しながら対応していきたい。

また、管内の企業に赴き、外国人就労者に対する交通講話を行い、交通マナーやルールを教えている。防犯指導も行っているが、ゴミ捨ての方法まではなかなか説明できない。文化の違いもあるが、繰り返し交通指導を行ったところ、改善が見られたため、引き続き取り組んでいかなければならないと思っている。トラブルにならないよう、外国人の方が犯罪に遭わないようにしていきたいと思う。

委員： 前回の協議会の際、充電式の光る反射材を貰い、非常に良かった。私は夜7時位から40分位ウォーキングをしているが、コロナ以降ウォーキングをする人が増えている。若い世代は反射材を使う人が少ないので、警察で対策をしてもらいたい。タスキは落ちてくるので、腕に付ける充電式の光る反射材は使いやすかった。

警察： 若い世代が使えるようなマスコットを反射材として配布しているが、若い人たちは反射材を使うのが恥ずかしいのか、難しい状況にある。携帯電話のストラップ型は結構付ける人もいたが、業者も色々思案して作っており、警察としても全世代に付けてもらえるよう、各世代に対応した付けやすい物を選んでおり、今後も頑張っけてもらえるようにしたいと思う。

## 7 その他

次回開催は令和7年5月下旬若しくは6月下旬に予定

## 8 閉会